

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関ホールに運営理念、重要事項を掲示している。理念に沿い、地域との結びつきを重視し、地域のボランティアや近隣の方との交流を深めている。	○	理念の具体的対応として、地域ボランティア受け入れに積極的であり、前沢会（民謡）は3年継続され、他にも月に3度程度のボランティア受け入れが来ている。これからは多方面に地域との連携を図って行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日の会議時やその他随時、職員に対し、理念の共有のため話し合いを行っている。職員相互間でもまた、勉強会を通して、理念実現に則した話し合いを行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域の方がいつでも気軽に入出入りできるような環境作りを行い、また毎月ご家族宛に提出する報告書に、理念に沿った個々の取り組みを報告している。	○	家族協力による行事参加等が入居者の生活の継続に必要であることをご理解いただき、今後も家族と共に歩んでいける施設であるという理念の具体化に取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人と挨拶、会話を交わし、近隣の方と触れ合う機会を大切にしている。以前はチラシ等でのお知らせを配布し、グループホームの存在をアピールしてきた。	○	以前発行していた新聞を再度発行して行くことで、地域の理解をさらに深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会からはついた餅が配られたり、老人会に個別に招待されるなど、自主的な交流も多く、その際には相互に自由な交流が出来るよう支援している。	○	蕎麦打ちなど、普段入居者が出来ないボランティアが来てくれる事で生きがいにもなるので、さらにそういった慰問先の受け入れを捜して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者のボランティアの受け入れを行い、相互交流を深めることで、高齢者相互の触れ合いの場を設けている。</p> <p>○</p>	<p>運営推進会議や地域との連携により、地域に貢献できるような支援を今後検討していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価を活かして話し合い、改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>これまで会議の開催を呼びかけてきたが都合が合わず実施できなかった。今年4月より2月に1度の開催がされており、地域との取り組みをはじめたところである。</p> <p>○</p>	<p>会議の意義と重要性を理解していただき、継続的に開催できるよう努めていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月に1度、市担当者がホームを訪問、意見を伺い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要な利用者には、活用できるように支援しているが、職員間で十分な理解ができているとはいえない。</p> <p>○</p>	<p>外部研修に参加し、または社会福祉士の職員による職場内研修を行うことにより、成年後見制度や地域権利擁護事業に関する理解を深めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止マニュアルがあり、全職員が虐待のないケアを目指し、努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご本人やご家族に疑問等がないかを適宜伺いながら、わかりやすい説明を行い、十分な納得をいただいた上で、契約や解約を行っている。</p>	○	<p>今後、実際に住んでみて本人に会う環境かを確実に見定めていくためにも、お試しの期間等を作るなどして、本人の意思確認を慎重に行って行きたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段からリラックスの出来るコミュニケーションを図り、利用者が本音を言える関係作りに努めている。上がってきた意見は、職員間で話し合いの上、運営に反映させている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会が少ないご家族にも、入居者の様子がわかるよう、月1度活動状況報告書を送り、金銭面については電話にてお伝えしている。</p>	○	<p>月1度の活動状況報告書にて生活の様子や職員の異動状況を報告しているが、今後、なおいっそう、緊密な連携が取れるよう、面会時などは自己紹介を行うなどして、職員全員が家族と顔見知りの関係になれるよう努めて行きたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族面会時には意見が聞けるよう挨拶を交わし、会話の中で意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。重要事項説明書にも苦情受付機関について明記してあり、利用者が対等の立場に立てる配慮を行っている。</p>	○	<p>面会時などで、ご家族が意見を言いやすいように、職員からの働きかけを強化していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度、全職員で話し合いの場を設けており、職員の意見を反映させている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者のその時その時の状況に合わせ、見守り等必要なサービスが提供できるよう、話し合いを設け、管理者、職員間で調整を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員はユニットごとに固定されており基本的に異動はないが、異動がある場合は、前もって知らせ、異動後も頻繁に顔を出すなどして、入居者へのダメージを最小限にする工夫をしている。</p>	<p>○</p> <p>ユニットごとの行き来の機会を多くすることで、入居者が日中どのユニットでも過ごせることが出来、交流の機会が今以上に持てるように支援していきたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>半年に1度、ユニット内での研修を実施している。また、外部研修にも積極的に参加できるよう調整を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との情報交換を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の話し合いを行う他、管理者が個別に職員と話し合う場を設け、個別に悩みを聞いている。</p>	<p>○</p> <p>職員同士が気軽に話の出来る関係作りをし、お互いにストレスを解消し、不安や悩みの解決が出来るよう助言しあっている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回、職員が自己評価を付け、向上心を持って働けるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時や実態調査時、必ず本人と話し合い、本人のニーズ把握に努めている。入所に至らない場合であっても、本人のニーズに最適と思われるアドバイスを、面接時には行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時や実態調査時、家族が困っている事、不安に思っている事などを確認し、必要があれば、個別に家族と面談を、必要な回数行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来ること、出来ないことを話し合い、他のサービスが適切であるかどうかお互いに検討している。また、他のサービスが適当と思われる場合は、情報を提供し、判断材料としてもらっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り本人に見学に来ていただき、ホームの雰囲気を感してもらおうようにしている。本人がホームに馴染めるよう、家族と連絡をまめに取り合い、その方にあったケアが出来るよう努めている。	○
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と食事やお茶を一緒に摂っている。料理や裁縫など、出来ることは一緒に行っている。	
671	937	937	937 本人が突然の入所、環境の変化についていけず不安にならないように、今後、あらかじめお試しの期間を設けるなど、安心してサービスが受けられる配慮を行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時にはお茶をお出しし、ホールや居室で一緒に過ごしていただく時間を長くすることで、同じ空間で過ごす一員であるとの雰囲気作りをしている。また、家族参加の行事を企画し、家族が同じ楽しみを共有できるようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係を維持しながら行事の参加を促したり、生活状況報告書を作成し送付することで、家族の支援の大切さを理解していただいている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームに来て頂けた時には、定期的に訪問いただけるよう、挨拶し、馴染みの方にも馴染めるような雰囲気作りを行っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話の受け答えなどで時々あるトラブルには、すばやく対応し、事の善悪などで一部が孤立しないような心配りを行い、個々の利用者の気持ちを傷つけないように接している。	○	ユニット内でトラブルがあっても、周囲の方が徒に不安感を抱かないよう、気を配りサポートしている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も必要とあらば、利用者や家族と連絡を取り合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で明確な意見を言えない方に関しては、普段の行動や表情に注意し、顔を見ての会話、わかりやすい言葉での対応、ゆったりとした雰囲気での傾聴を行い、本人の意向の把握を行っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員の取った、履歴、家族関係、これまでの病歴、生活歴等の書かれたアセスメントをもとに、職員間での気づきを持ち寄り、職種に偏らない話し合いをすることで、全般的な把握ができるよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所前の生活状況や、長年暮らした生活状況等を、入所時に本人や家族から聞き取りをすることで、無理なく自分らしく過ごせるような配慮を行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面接で本人、家族から情報を収集し、介護計画に反映させている。気になる事柄については、家族に連絡を入れて確認、相談しながら、ユニットの職員が意見を持ち寄り、検討を重ねて計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや、変化が見られたときの見直しは随時行っている。介護支援専門員と一緒に、家族にセンター方式のツールの意味や気づきを理解してもらい、本人の履歴や生活習慣を尊重したプラン作成に心がけている。	○ これからはさらに、ご家族にも計画作成に積極的に参加いただき、入所前の履歴や習慣、生きがいなどの聞き取りを行うことで、本人、家族、施設が共に作れる計画作りを行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に観察して、日々の小さな変化を読み取り、随時記録を取ることによって、状態変化に応じた計画の見直しが出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族とのコミュニケーションを大切にしており、お茶などを提供しながら、入居者様の近況報告等を行い、本人の意向に沿った支援ができるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア受け入れを継続的に行うなどの事に力を入れた結果、周辺地域の各施設から、理解され協力をいただけるようになってきている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の生活習慣などを尊重し、その方に合った支援を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との情報交換等の連携を行っている。	○	運営推進会議を通じて、今後もさらに連携を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関に限らず、家族より希望があった場合は、希望の医療機関に受診できるよう、かかりつけ医と連携を取っている。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>指定医療機関の医師により対応しているが、必要があれば、家族の希望により、主治医と相談し、専門医との連携を取っていただいている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員は現在いない。協力医療機関の医師に相談しながら、日々の健康管理をしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時、介護サマリーを渡し、施設での様子を伝えている。頻回に本人や家族との話し合いの機会を持ち、早期退院の支援をしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族やかかりつけ医と相談しながら、緊急時の搬送先を決定している他、延命治療、終末期の対応についてあらかじめ話し合い、方針の共有をしている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族には、ホームで出来ること、出来ないことの説明をあらかじめ行い、かかりつけ医と共に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>家族やケア関係者間で話し合い、十分な説明の元で転居先で困ることのないようにしている。転居の際には、介護サマリーや直近のケアプランを担当の相談員、介護支援専門員に渡し、適切なケアが転居先でも受けられるよう支援している。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>入居者様が十分に自分の意思を伝え切れないことを職員が常に理解するよう努め、本人の伝えたい事柄を十分に理解、傷つけない努力を常にしていきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>職員側の都合で動くことのないよう、常に自省することで、本人が納得して生活できる場が提供できるよう努めていきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>本人一人一人のペースや生活リズムを理解することで、自分らしくその日一日を過ごせるような支援を、今後もしていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>本人の好みに合わせたヘアスタイルなどを聞き、身だしなみやおしゃれができるような支援をしている。</p> <p>理容師の資格を持つ職員が散髪するなどしており、出来るだけ身だしなみについて配慮できる支援をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	たばこに関しては、入居者様と話し合い、本数など決めて、健康に留意しながら楽しんでもらえるようにしている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	出来るだけ入居者様の希望に合わせて入浴できるように努めて行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	眠る時間が個人間でばらつきはあるが、その方なりの生活パターンが維持できるような支援に努めて行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○	個々の希望に沿い、買い物に行くなど、その方に 応じた支援を行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○	電話や手紙など、直接手渡ししたり場から離れて 見守るなど、本人のプライバシーを尊重した配慮 を行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○	馴染みのある方とのコミュニケーションの機会を 大切にし、訪問があった際には長い間話ができる ような配慮を取ることで、入居者の孤立感がなくな るよう配慮し、支援している。
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○	他入居者の居室に入ろうとした場合に声をかける などして、なるべく行動抑制につながらない配慮 を行っていききたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避のため（ご家族に十分な説明をし、同意を得て）玄関はオートロックで施錠されるようになっている。お天気の日や状況に応じて、ドアを開放したり、ベランダに出たりしている。	○	オートロック施錠が入居者様の生活上マイナスにならないように、外出の機会は常に持てるようにし、施設内での生活に息苦しさを感せず、楽しく、かつ質の向上につながるような支援に努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して入居者の見守りや声かけ等安全確認をすることで、職員同士、安全のために連携を図っている。	○	かかりつけ医との連絡は、電話、携帯電話等を使用し、24時間対応が出来る体制を、医療サイドと作り対応している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所や管理方法を明確に取り決め、安全に配慮して管理している。希望時はお渡しし、適切に使えるよう、見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の個別性を重視し、把握することで、職員間で連携を図り、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、緊急対応の手順が作られており、緊急時に備えている。随時、緊急事態が発生した時の問題点の把握と改善を認識して備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	周辺地域との関わり合いを大切にしたり、職員の入居者安全第一の対応確認など、災害時の対策を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	生活状況報告や面会時のコミュニケーション、随時の連絡を通して、本人の現状を家族に理解していただき、話し合いをすることで、リスクへの対応を行っている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	入居者一人一人の体調の変化に速やかに注意が向くよう心がけている。変化や異変には速やかに対応し、情報を共有し、入居者にとってよりよい方向性を見出すようにしている。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	毎食毎に薬と水とを用意し、服薬の状況を確認している。用法や容量をわかりやすくし、誤薬のないよう留意すると共に、症状の変化を観察し、健康管理の支援を行っている。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	入居者一人一人の体調に合わせた調理を心がけると共に、水分の適正補給に努めている。毎日のラジオ体操、散歩等で適正な運動量を確保し、また本人の意識付けを行うことで、便秘予防をしている。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	起床時、毎食時、就寝前に口腔ケアを個別性を重視して行っている。見守り、声かけ、介助等、本人の能力に応じて支援し、必要時には歯科医師による定期健診を受けている。	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	栄養士が立てた献立を基に調理し、味や盛り付けに気配りを行っている。食事時の声かけやコミュニケーションを大切にし、和やかな雰囲気での食事が取れるよう配慮している他、十分な水分量が確保できるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、感染予防について職員の十分な理解に努めている。うがいや手洗いは毎日その都度実行し、自主管理点検表に個々にチェックを入れている。食事前には、ヒビスコールでの殺菌を行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具の衛生管理に努めている。布巾は使用後は消毒し、常に清潔にしている。毎日新鮮な食材を使用し、食品管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに四季折々の草花を植えたり、入居者と野菜の栽培を行ったりしている。近隣の方とも、明るく挨拶を交わしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外気を取り入れたり、採光に工夫したりして、明るく楽しく、落ち着いた、家庭的な空間作りをしている。フロア共用のテーブルには、季節の花を飾ったり、製作した絵などを飾ったりしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居室には、プライバシーが守られている。共用のフロアでは気のあった入居者同士で会話が楽しめたり、音楽やテレビが楽しめるなど、自主性を重んじた座り方が出来るよう、職員で配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	入居者が作成した創作物や外出した写真を飾るなどして、生活の記憶が形として表されるようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○	身体機能の低下防止のため、毎日ラジオ体操や可動域訓練の体操、散歩等の歩行の確保を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○	今後は、土いじりをしたり、野菜作りで、収穫までのプロセスを楽しめるような継続した取り組みをしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様への楽しみの提供については、単なるレクリエーションの繰り返しではなく、地域の方との交流でもあるボランティアや慰問の積極的な受け入れ、月に1度の外出での食事会など、家庭でもご高齢になれば味わえなくなる活動の強化に努め、楽しく刺激のある生活が送れるような試みを行っています。